

## 福岡県の主な農産物の生産状況

令和元年 8 月 20 日現在  
(専技情報より抜粋)

### ◇早期水稲（夢つくし、コシヒカリ）◇

4 月中下旬植えの「夢つくし」「コシヒカリ」の収穫は、8 月 11 日頃から始まりました。梅雨明け後の高温の影響で、収穫は平年並み～2 日程度早まり、8 月末までに終了する見込みです。刈り遅れにならないよう適期に収穫しましょう。穂数は平年並み～やや少ないですが、多照に経過したため収量は平年並みになる見込みです。収穫後は直ちに適切な乾燥を行いましょ。

### ◇普通期水稲（夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリなど）◇

出穂期は、6 月 10 日植え「夢つくし」が 8 月 10 日で 2 日早く、6 月中旬植え「元気つくし」が 8 月 17～20 日で平年並みです。

葉いもちは平年より少ないですが、セジロウンカ、トビイロウンカ、コブノメイガの発生は平年より多く、特にトビイロウンカは過去 5 年間で最も多発生です（8 月 2 日付けで注意報が発令）。発生に留意し、適期に対策を行いましょ。紋枯病、カメムシも増加するおそれがあります。

「夢つくし」の収穫は、平年よりもやや早い 9 月中旬が最盛期になる見込みです。出穂・開花期は水を最も必要とするため、十分かん水を行い、その後は間断かん水とします。収量、品質向上のため、早期落水は避けましょ。また、台風通過時は、深水管理します。

### ◇大豆◇

大豆の播種は、播種後の大雨によるまき直しと梅雨明けが遅かったことから 8 月 5 日ごろに終了しました。

6 月下旬から 7 月上旬播種のほ場は、概ね順調に生育しており、6 月下旬播種の開花期は、8 月 9 日頃で平年並みでした。梅雨明け後の 7 月下旬以降播種は、適度な降雨により出芽も順調です。7 月下旬播種の開花期は平年並みの 8 月下旬の予想です。

6 葉期頃までに株元まで培土を行いましょ。草丈が低い場合は最下着莢高が低くなりますので、刈取作業に支障がないよう培土は 1 回に留めましょ。開花始期～子実肥大期は乾燥に最も弱い時期です。本暗渠の栓を閉めて乾燥防止に努めましょ。

雑草の発生は少ないですが、一部、帰化アサガオ類などの雑草が発生しています。病害虫の発生は問題となっていませんが、高温によりハスモンヨトウ、カメムシが増加するおそれがあります。雑草・病害虫は発生に応じて、対策を徹底しましょ。

### ◇アスパラガス◇

夏芽の出荷量は、7 月中旬をピークに緩やかに減少しており、10 月下旬まで出荷が続く見込みです。高温のため草勢が低下しており、細莖傾向で、曲がりや穂先の開きなどの障害茎の発生が多く、斑点性病害が発生しています。遮光資材の利用やハウスの換気により昇温抑制対策を徹底するとともに、土壌が乾燥しないよう適度なかん水を行い、草勢維持に努めましょ。ハダニ類、アザミウマ類の発生は例年並ですが、チョウ目害虫の発生がやや多いです。病害虫対策を徹底しましょ。

### ◇イチゴ苗◇

7 月 20、21 日の豪雨や梅雨明け後の高温等の影響による輪斑病や根傷みの発生で生育遅れが散見され、全体としては、平年に比べやや充実不足の苗となっています。

早期作型では 8 月中旬から低温処理が始まっており、定植開始は 9 月 10 日以降になる見込みです。寒冷紗被覆など高温対策を徹底するとともに、生育に応じた作型を検討しましょ。

病害虫は、炭疽病、ハダニ類、アブラムシ類の発生が平年並です。病害虫対策を徹底す

るとともに、炭疽病が発生している場合は、発病株の除去を徹底しましょう。

#### ◇温州ミカン◇

**着果量は、極早生・早生が並み～やや多、普通がやや少**です。7月の降雨・寡日照により、果実糖度は前年・平年より低く（早生：8/5 6.8% 前年比-1.2% 平年比-0.4% 果樹部調べ 以下同）、酸度は前年よりやや高く・平年並み（同4.0% 前年比+0.7% 平年比-0.1%）です。果実肥大は前年・平年より良好に推移しています（早生：8/16 49.3mm 前年比+5.2mm 平年比+2.9mm）。

現在、8月以降の高温の影響で樹体の水分ストレスが強まっており、果実品質は上昇傾向です。今後、日焼け果の発生や9～10月の秋雨による浮皮発生の軽減に努めましょう。マルチ栽培では、果実の肥大、減酸状況をみながらシートマルチの開閉、かん水などの果実品質向上対策を徹底します。

仕上げ摘果は、果実の大きさを参考に、着果量の多い園から行いましょう。カメムシ、ハダニの多発期となるため、早めの対策を行いましょう。

#### ◇ナシ◇

露地「幸水」の出荷開始は、前年よりやや遅い7月26日前後、終了は前年並みの8月9日前後でした。果実肥大は概ね良好で、果実糖度は収穫前後の好天の影響で11%後半～12%台に向上。一部で黒星病の後期感染が発生しました。

露地「豊水」の出荷開始は、前年並みの8月盆前で、果実肥大・糖度は良好ですが、一部で水浸果（通称：にえ果）、日焼け果が発生しています。適期に収穫し、収穫後の果実は直射日光を避けるなど、品温上昇を防ぐ対策を行いましょう。

今後、カメムシ、ナシヒメシンクイ、ヤガ類の発生時期となるため、早めの対策を行いましょう。

#### ◇トルコギキョウ◇

**夏季出荷作型（6～9月）の出荷が続いています。**出荷量は、面積の減少および、開花の前進化で一部が5月出荷となったことで大きく減少しました。

秋出荷作型（10～11月出荷）の定植は8月上～中旬で概ね終了しました。抽台開始まで十分なかん水を行いましょう。高温の影響で抽台がやや早いものの、定植後の生育は概ね順調です。晴天でも過度な遮光は避け、定植1週間程度で遮光資材を除去しましょう。ヤガ類対策を徹底しましょう。

#### ◇肉用牛◇

**和牛去勢の枝肉単価**は前月の2,412円/kgより若干低下し、前年比97%、過去5年平均比では102%です。**省令価格**は前年比104%、過去5年平均比では102%と、前年よりやや高く推移しています。高温が続いているため暑熱対策を徹底するとともにビタミン・ミネラルを通常時期より増強しましょう。